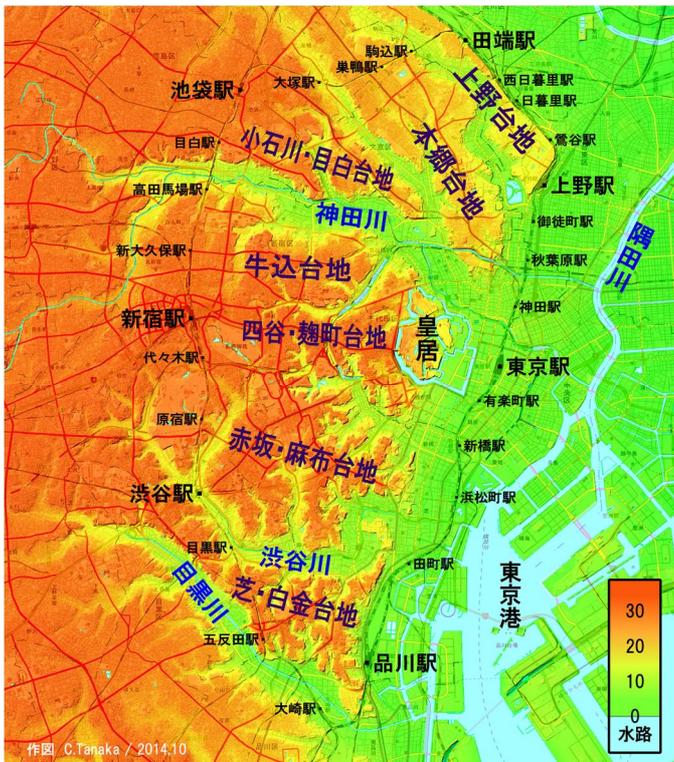


## 「武蔵野台地とニリンソウ (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

現在のお茶の水女子大学は、複雑な地形の上に位置している。大観すれば、武蔵野台地と東京低地の境目の「武蔵野台地上」すれすれに位置していることになる。武蔵野台地の東端は、いくつもの川(神田川・目黒川・渋谷川など)に浸食され、残った台地(段丘)が手の指のように、西から東に何本も張り出している。これは「舌状台地」と呼ばれ、お茶の水女子大学は、「小石川・目白台地」の南東端に位置する。

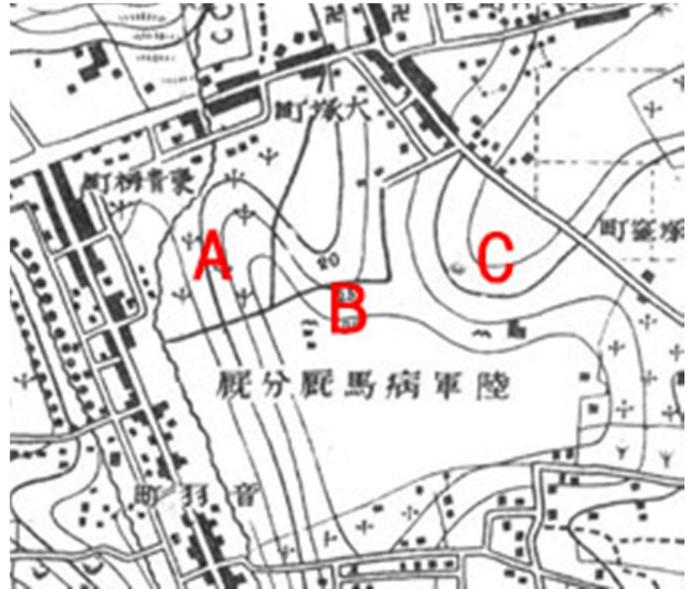


「武蔵野台地東端の色別標高図」 作図 ; C.Tanaka



「お茶の水女子大学付近の色別標高図」 C.Tanaka

お茶の水女子大学は、辛うじて武蔵野台地に乗っているが、一ヶ所だけ段丘崖の下に位置しているところがある。大学の北西端にある「西門」である。現在の大学の色別標高図を見ると、地形が人工的に造られた印象を受ける。古い地形図と比較すると、それは事実であるとよくわかる。



図は明治時代の地形図である。大学の敷地は、もともと陸軍の施設があった。Aが現在の西門の位置で、当時から段丘崖の下に位置していたことがわかる。しかし大学グラウンド付近の地形は、もとの自然の地形とは大きく変わっている。B付近には谷間が見られるが、これは神田川の支流の音羽川の源頭(水源)の一つである浸食谷の地形である。Cの浸食谷は小石川の源頭である。小学校や大学講堂は、この谷間にある。「窪町」の名の由来になった地形とも読み取れる。



写真は、大学グラウンドから西門へ下る急坂である。赤い門扉が西門である。現在西門は閉鎖されているが、その分人通りはなく、風致された環境が残っている。この「崖の上のポニー、ニリンソウ」がすばらしい。

# 山手線一周 ～東京の地形～

